

精神科専門研修プログラム



- 専門研修プログラム名: 東邦大学医療センター大森病院 精神科専門研修プログラム
- プログラム担当者氏名: 根本 隆洋
住 所: 〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
電話番号: 03-3762-4151 FAX: 03-5471-5774
- 専攻医の募集人数: 6 人
- 専攻医の募集時期: 日本精神神経学会ホームページ参照 (<https://www.jspn.or.jp/>)
- 応募方法:
履歴書を Word または PDF の形式にて、E-mail にて提出すること。
電子媒体での提出が難しい場合は、郵送にて提出すること。
 - E-mail
ktgrnoyk@med.toho-u.ac.jp 宛に添付ファイル形式で送信。
件名は「専門研修プログラム応募」とする。
 - 郵送
〒143-8541 東京都大田区大森西 6-11-1
東邦大学医学部精神神経医学講座 根本 隆洋
宛に簡易書留で郵送すること。封筒に「専門研修プログラム応募書類在中」と記載すること。
- ◆ 提出期限 ◆
日本精神神経学会ホームページ参照 (<https://www.jspn.or.jp/>)
- 採用判定方法:
履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。

I 専門研修の理念と使命

1. 専門研修プログラムの理念(全プログラム共通項目)

精神科領域専門医制度は、精神医学および精神科医療の進歩に応じて、精神科医の態度・技能・知識を高め、すぐれた精神科専門医を育成し、生涯にわたる相互研鑽を図ることにより精神科医療、精神保健の向上と社会福祉に貢献し、もって国民の信頼にこたえることを理念とする。

2. 使命(全プログラム共通項目)

患者の人権を尊重し、精神・身体・社会・倫理の各面を総合的に考慮して診断・治療する態度を涵養し、近接領域の診療科や医療スタッフと協力して、国民に良質で安全で安心できる精神医療を提供することを使命とする。

3. 東邦大学医療センター大森病院精神科専門研修プログラムの特徴

東邦大学医学部精神神経医学講座は、帝国女子医専時代にはじまる長い歴史と伝統をもち、本邦の臨床精神医学の発展に大きく貢献してきた。現在も精神科早期介入や統合型地域精神科治療など、日本の精神医療における先駆的な取り組みを続けており、医局員は臨床および研究領域で世界的にも活躍している。

基幹病院である東邦大学医療センター大森病院精神神経科(メンタルヘルスセンター)は、人口約70万人の大田区において精神科病床を有する唯一の総合病院であり、大田区のみならず近隣地域も含めた医療圏の中核施設と位置付けられている。病棟は閉鎖36床を有し、急性期治療や身体合併症治療に必要な隔離室や観察室も備えている。また、外来診療施設に加えて精神科デイケアを有し、精神科リハビリテーションにも対応している。デイケアは「イルボスコ(イタリア語で森の意味)」と名付けられ、早期精神病に特化したユース・デイケアとして、そのユニークな活動と成果は海外からも注目を集めている。

専攻医は入院患者の担当医となり、指導医のもとで看護師、精神保健福祉士、臨床心理士、薬剤師、栄養士などとチームを組み、さまざまな精神疾患の診断と治療を学んでいく。面接技法、精神症候学、生物学的検査、心理検査、認知機能検査などの診断に必要な技能や、薬物療法、精神療法、修正型電気療法、精神科リハビリテーションなどの治療法を修得することができる。光トポグラフィーや認知リハビリテーションなどの最新の技法に触れることもできる。児童・思春期症例が豊富であることも特徴であり、近隣の公的機関からの相談や診療の要請も多い。また、日本老年精神医学会の認定施設でもあり、認知症や老年性精神疾患など超高齢社会において不可欠な老年精神医学についても習得できる。リエゾン精神医学では、緩和ケアチームに加わり腫瘍精神医学について学ぶこともできる。多くの精神疾患における診断や治療を網羅的に学び身につけることができる環境といえる。

また、済生会横浜市東部病院(横浜市)、井之頭病院(三鷹市)、武田病院(川崎市)、東京足立病院(足立区)、東京武蔵野病院(板橋区)、港北病院(横浜市)、東京都立松沢病院(世田谷区)、神奈川県立こども医療センター(横浜市)、大泉病院(練馬区)、慈雲堂病院(練馬区)、神奈川県立精神医療センター(横浜市)などの、基幹施設から比較的近距離の単科精神科病院が連携施設にあり、3年間を通じて基幹施設との密なる結びつきのもとに研修を進めることができる。アルコール関連障害治療、精神分析療法、認知症治療、精神科リハビリテーションなど、各病院とも特色あるプログラムを準備している。また、あさかホスピタル(福島県郡山市)では、全国にその名が知られた「統合型地域精神科治療プログラム(Optimal Treatment Project, OTP)」や「ささがわプロジェクト(本邦初の包括的な脱施設化)」についても学ぶことができる。その他にも鶴見西井病院、練馬光が丘病院、ハートフル

川崎病院、東邦大学医療センター佐倉病院、根岸病院をはじめ、多くの精神科医療機関を連携施設としてプログラム内に有しており、各専攻医の希望に応じた個別的な対応が可能である。

本プログラムにおいては、児童・思春期および早期精神病から、慢性期のケアや認知症サポートまで、そして生物・心理・社会に加えて倫理観も併せた bio-psycho-socio-ethical な視点に立った、網羅的かつ多次元的な精神科専門医研修を、十分な訓練設備と豊富なスペシャリストのもとで着実に学べる最適な環境が約束されている。専門医の取得のみをゴールにしない、その後の更なる飛躍を見据えた研修が、本プログラムの特色である。



東邦大学医療センター大森病院

II. 専門研修施設群と研修プログラム

1. プログラム全体の指導医数・症例数

- プログラム全体の指導医数:129 人
- 昨年一年間のプログラム施設全体の症例数

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	1671	535
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	2190	772
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	8101	3554
F3: 気分（感情）障害	5663	1163
F4 F50	5126	563
F4 F7 F8 F9 F50	4152	614
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	248	64
その他	516	47

2. 連携施設名と各施設の特徴

A 研修基幹施設

- ・施設名: 東邦大学医療センター大森病院
- ・施設形態: 私立大学病院
- ・院長名: 瓜田純久
- ・プログラム統括責任者氏名: 根本 隆洋
- ・指導責任者氏名: 根本 隆洋
- ・指導医人数: 6 人
- ・精神科病床数: 36 床
- ・疾患別入院数・外来数 (年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	450	16
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	100	8
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1200	97
F3: 気分 (感情) 障害	1000	78
F4 F50	800	16
F4 F7 F8 F9 F50	450	15
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	50	5
その他	0	0

施設としての特徴 (扱う疾患の特徴等)

当院は 928床のうち精神科 36 床を有し、精神科デイケアも備える、東京の城南地区における最大級の大学病院であり、高度専門医療機関の指定を受けている。受診者の多くは大田区、品川区、川崎市の在住者で、大学病院でありながら非常に地域に根差した医療が当院の特徴である。また、大学メディアセンター (図書館) や電子書籍サービスをはじめ、学習環境も充実している。精神科においては、器質性、内因性、心因性、中毒性にわたる幅広く豊富な症例を経験できるが、初回エピソード精神病や精神病発症危険状態 (at-risk mental state, ARMS) の症例数の多さは全国でも有数であり、今後の医療の中心となる早期発見・早期治療の最先端に触れることができる。

治療については、精神科医として専門的精神療法の習得は必須であるとの考えのもと、当科ではとくに認知行動療法や森田療法に関するセミナーの参加や資格の取得を支援している。薬物療法については、クロザリル (クロザピン) の登録医療機関であり、身体科との密な連携のもと積極的に導入を行っている。毎週月曜日午後にはケースプレゼンテーションおよび回診を行い、夕方からはケースカンファレンスやジャーナルクラブ (抄読会) を開催している。その他、年間を通じて適宜クルズスを行っている。その他、地域の医療従事者に向けた研究会や講演会を数多く開催している。さらに、毎週ネイティブスピーカーによる英会話レッスンも行っており、グローバルな視野とコミュニケーション・スキルの獲得を目指している。

B 研修連携施設

① 施設名: 済生会横浜市東部病院

- ・施設形態: 公的総合病院
- ・院長名: 三角 隆彦
- ・指導責任者氏名: 辻野 尚久
- ・指導医人数: 4 人
- ・精神科病床数: 50 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	193	31
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	62	12
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	286	48
F3: 気分(感情)障害	281	48
F4 F50	629	29
F4 F7 F8 F9 F50	672	35
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	16	7
その他	0	0

当院精神科は病院全体の病床数 560 床の中で 50 床の精神科閉鎖病棟を運用している。神奈川県精神科救急システムの基幹病院ならびに神奈川県精神科身体合併症システム、横浜市認知症緊急一時事業の担当病院であり、措置入院症例を含む精神科救急、その他精神科急性期治療、身体合併症例、リエゾン精神医学を中心に研修する。通常精神科病棟ならびに外来業務に加えて、一般病棟においても担当を受け持ち、リエゾン医療、周産期メンタルヘルス、緩和医療(腫瘍精神医学)を系統的に研修していく。また、身体疾患における三次救急も行っているため、重篤な自殺企図後の症例に対する介入など、救命救急医療現場での精神医学的介入を研修していく。治療法としては、クロザリル登録医療機関であり、また mECT も治療対象者に対して、施行しているため、難治症例に対する専門性の高い治療法についても研修可能である。

② 施設名: 医療法人安積保養園 あさかホスピタル

- ・施設形態: 民間精神科病院
- ・院長名: 佐久間 啓
- ・指導責任者氏名: 武士 清昭
- ・指導医人数: 10 人
- ・精神科病床数: 495 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	324	148
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	22	19
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	681	445
F3: 気分（感情）障害	607	170
F4 F50	277	23
F4 F7 F8 F9 F50	337	8
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	24	12
その他	218	25

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は、許可病床 470 床の精神科病院で、精神科救急病棟 60 床を有しており、地域の精神科基幹病院として医療観察法による鑑定入院及び措置入院をはじめ多数の入院を受け入れている。こどもの心外来や入院治療を行う児童・思春期ユニット病棟(29 床)を有し、就学前の児童からお年寄りまで「心」の診療を幅広く総合的に行っている。器質性精神障害・認知症、統合失調症、気分障害、神経症性障害などをはじめ、多彩な疾患、症例を経験することが可能である。精神科病棟(入院基本料 15 対 1)、認知症治療病棟、精神療養病棟、特殊疾患病棟も有している。難治性統合失調症に対するクロザリルの登録医療機関であり、m-ECT(修正型電気けいれん療法)も実施している。身体的治療については内科医、神経内科医、脳神経外科医、歯科医が勤務し、MRI、CT、骨密度、エコー、内視鏡検査の体制を整えており、統合失調症や認知症の方の血液透析も行っている。血液・尿検査も1時間程で結果報告を行える体制となっている。児童・思春期領域の治療も積極的に行っており、発達障害に関しては、リハビリとして感覚統合訓練、親へのペアレントトレーニング等を行い、病院敷地内にある関連施設の総合発達支援センター「Alba」での相談支援や就学前児童のデイサービス、或は就学児童の放課後デイサービス等とも連携している。作業療法士をはじめ公認心理師、精神保健福祉士、言語聴覚士などコメディカルが多数勤務しており、児童へのチーム医療の体制がととても充実している。また、当院では先進的に地域移行に取り組み、平成 14 年に始動した「ささがわプロジェクト」では統合型精神科地域治療プログラム(Optimal Treatment Project: OTP)に基づき、90 人の方々が地域移行し、診察やデイケア、訪問看護などの医療サービスと NPO 法人アイキャンによる生活支援や就労訓練をチームとして統合的に行ってきた。現在 NPO 法人アイキャンではグループホームで約 140 人の生活支援を行い、K ふぁーむという農場、パン工房、そしてイタリアンレストランでの就労支援も行い、グループとして障害者雇用も幅広く取り組んでいる。リハビリ部門は精神科作業療法や精神科デイケア、精神科デイナイトケア、精神科ナイトケア、重度認知症患者デイケアなどがあり、訪問看護は、年間 10,000 件を超えており、多職種がチームとして多彩なプログラムとサービスを提供している。

③ 施設名: 公益財団法人 井之頭病院

- ・施設形態: 民間精神科病院
- ・院長名: 菊池 健
- ・指導責任者氏名: 木下 文彦
- ・指導医人数: 11 人
- ・精神科病床数: 640 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	105	72
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	1359	510
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1346	649
F3: 気分(感情)障害	603	127
F4 F50	279	26
F4 F7 F8 F9 F50	314	44
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	31	7
その他	42	6

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

JR 三鷹駅から徒歩 9 分の立地にある、昭和 2 年に開設された歴史ある 640 床の都市型単科精神科病院である。高い病床利用率を維持し、活発な医療活動を展開している。統合失調症、うつ病、不安障害、認知症、発達障害などに加え、アルコール依存症の専門医療にも力を入れており、アルコール病棟(3 棟)、アルコールデイケア、アルコール外来からなる、アルコール症センターを有している。高齢者精神保健相談や思春期精神保健相談も行っている。

地域と密に連携した多職種チームによる丁寧な精神科医療を心がけており、退院時の環境調整にも重きを置いている。地域の住民に向けたメンタルヘルスに関する講演会を開催したり、盆踊り大会や文化祭を実施したりしている。また、院内教育を積極的に推進しており、専門家を講師として招いた教育研修も定期的に行っている。

リハビリ部門では、デイケアに加えリワークプログラムを実施している。医療観察法の鑑定入院と指定通院を受け入れている。平成 27 年 6 月には新病棟が完成し、ハード面においても充実を図った。

④ 施設名:医療法人社団慶神会 武田病院

- ・施設形態:民間精神科病院
- ・院長名:武田 龍太郎
- ・指導責任者氏名:武田 龍太郎
- ・指導医人数:8人
- ・精神科病床数:140床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	27	4
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	13	4
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	713	218
F3: 気分(感情)障害	770	131
F4 F50	286	33
F4 F7 F8 F9 F50	16	5
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	46	10
その他	103	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は昭和 35 年診療所として設立され、昭和 38 年に病院となり、創立 55 年を迎える。創立以来、精神療法的なアプローチを重視し、精神力動的な病院運営を旨とし、「患者様一人一人を大切に、人と人とのつながりを大切に」を理念に掲げている。病院という集団場面での治療設定を有効に活かすため、近年では個人精神療法など個人アプローチ中心の治療手段から、入院やデイケアにおいては多職種による集団精神療法的アプローチをその中心におき、疾患別入院集団心理教育、家族心理教育、SST、作業療法、入院マインドフルネスプログラムなど、多様な集団プログラムを実施している。

また、精神科急性期治療病棟を中心に多彩な患者(措置入院、人格障害、地域困難症例、うつ病など)を受け入れ、多くが短期間(急性期平均 48 日)で自宅や地域グループホームなどに退院する。退院困難な場合も地域機関と連携して地域移行を目指し、平成 26 年新規入院患者の 1 年後入院残留者は約 2% に留まる。川崎市北部の急性期精神医療、地域精神医療の中心的病院として運営を行っている。

その他の特徴としては、産業精神保健にも力を入れ、気分障害圏復職支援デイケアを運営し、地域の産業医や主治医から紹介された患者が連日約 25 名参加し、集団認知行動療法や集団精神療法などを行い、多くの患者が復職を果たした。民間企業数社ともメンタルヘルス契約を結び社員をサポートしている。

⑤ 施設名: 医療法人財団厚生協会 東京足立病院

- ・施設形態: 民間精神科病院
- ・院長名: 内山 真
- ・指導責任者氏名: 白上 正尚
- ・指導医人数: 10 人
- ・精神科病床数: 377 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	146	73
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	506	198
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1414	456
F3: 気分(感情)障害	1012	124
F4 F50	676	25
F4 F7 F8 F9 F50	88	14
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	31	8
その他	113	3

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は、東京都区東北部医療圏(足立区・荒川区・葛飾区)に属し、区や東京都、さらには隣接する埼玉県の行政とも広く連携して地域の中核的精神医療を担っている。病床数は337床で、精神科救急病棟、急性期治療病棟の他、回復期治療や地域移行を推進する療養病棟、アルコール依存やストレスケアを対象とした専門病棟、認知症や介護療養のための高齢者病棟など、機能別に分化した7つの病棟を有している。また都内有数の規模を誇るデイケアや作業療法センター、リワークプログラム、身体リハビリテーションなどのリカバリー部門を充実させている。さらに地域包括ケア重視の観点から訪問看護や往診などの訪問型精神医療を展開している。同一敷地内には老人保健施設や高齢者介護の諸部門も併設されており、近接して共同生活援助事業所(グループホーム)や就労移行支援B型事業所(レストラン・定食屋)、地域活動支援センターを運営し、特定相談支援事業も担っている。この他に竹ノ塚と北千住に3つのサテライトクリニックを設けている。

⑥ 施設名: 一般財団法人精神医学研究所 東京武蔵野病院

- ・施設形態: 民間精神科病院
- ・院長名: 黄野博勝
- ・指導責任者氏名: 藤田基
- ・指導医人数: 12 人
- ・精神科病床数: 637 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	453	130
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	151	23
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1812	1450
F3: 気分(感情)障害	830	258
F4 F50	455	116
F4 F7 F8 F9 F50	490	133
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	38	17
その他	0	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

東京の区西北部板橋区にあり、池袋駅から地下鉄もしくは私鉄で3駅と極めて交通至便の位置で、都市部における精神医療の形を学び、サービスのあり方を体験することができる。当院はその前身を加えると90年近い歴史があり、著名人の入院を受けることも少なくなかった。精神科救急病棟(スーパー救急病棟)2棟と精神科急性期病棟2棟(閉鎖・開放)も有し、措置入院・応急入院などの救急症例から、統合失調症圏や躁うつ病圏の様々な症例、あるいはより精神療法的関わりが必要な神経症圏や思春期青年期症例など、幅広い症例を受け入れている。また、亜急性期・慢性期病棟では、当院で熱心に行われてきた退院支援活動の流れを現在も受け継いで、入院から外来までの一貫した支援や病院外の資源との積極的な連携を行っている。認知症疾患治療病棟も有し、今後さらに必要性が高まるとされる認知症医療にも積極的に取り組んでいる。さらに内科、脳神経外科などの身体科も充実しており、精神疾患を有する患者の身体合併症の治療にも力を入れている。医療観察法の指定通院医療機関であり、鑑定入院も受け入れている。大規模デイケア、訪問看護も行っている。

⑦ 施設名:医療法人社団養心会 鶴見西井病院

- ・施設形態:民間精神科病院
- ・院長名:西井 ヘルベルト
- ・指導責任者氏名:西井 ヘルベルト
- ・指導医人数:5人
- ・精神科病床数:130床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	89	31
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	24	7
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	790	233
F3: 気分(感情)障害	420	233
F4 F50	1322	313
F4 F7 F8 F9 F50	1327	395
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	16	3
その他	0	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は病床130床で精神科デイケアを有する、精神科単科の病院である。神奈川県東部地域、横浜市鶴見区にある。受診者の多くは横浜市内在住で、近隣の川崎市、東京都の大田区からの受診もみられる。紹介患者の多くは近隣の精神科クリニックや保健所の精神保健相談からの紹介、鶴見区内の一般科の開業医からの依頼が多く、鶴見区の地域医療に根差した医療が特徴である。

入院では統合失調症の症例が多いものの、外来診療では様々な領域の疾患を経験することができる。認知症相談外来も行っている。また、多職種による充分した連携のもとでの訪問診療、訪問看護を行っており、地域医療を実践的に経験できる環境が整っている。

地域の医療従事者に向けた鶴見区精神科懇話会を開催し、精神科クリニックや近隣地域一般科の医師との連携を深めている。

⑧ 施設名:公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院

- ・施設形態:民間総合病院
- ・院長名:川上 正舒
- ・指導責任者氏名:當間 実名雄
- ・指導医人数:1人
- ・精神科病床数:0床
- ・疾患別入院数・外来数(年間)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	18	61
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	3	3
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	10	6
F3: 気分(感情)障害	100	42
F4 F50	31	11
F4 F7 F8 F9 F50	8	0
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	10	2
その他	0	13

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

練馬区の住宅地域の中心エリアに位置する 342 床の総合病院である。精神科病床はないが、外来およびリエゾン精神医学における多彩な症例を経験することができる。

リエゾン・コンサルテーションでは、身体疾患加療目的で近隣精神科病院から転院してきた精神疾患患者への対応のほか、身体科入院中のせん妄、抑うつ状態への治療や、心理・認知機能の評価などを行っている。自傷行為で救急搬送されてくる患者への対応も担っている。

外来診察では、感情障害圏、パニック障害などの神経症圏、認知症関連疾患、発達障害圏、睡眠障害の患者など、幅広く経験できる。勤労者のメンタルヘルスや地域医療での困難例への対応も積極的に行っている。また、かかりつけ医や行政機関と精神科病院の橋渡しの役割も果たしている。また、院内医療相談員と協力して適切な社会資源の利用を患者に提案している。

専門的検査については、心理検査、神経画像検査(脳血流シンチグラフィ、DAT シンチグラフィ等も含む)、神経生理学的検査などを行っている。

総合病院精神医学を学ぶのに適した研修環境であると自負している。

⑨ 施設名:医療法人正永会 港北病院

- ・施設形態:精神科病院
- ・院長名:山口 哲顕
- ・指導責任者氏名:山口 哲顕
- ・指導医人数:5人
- ・精神科病床数:210 床
- ・疾患別入院数・外来数(年間):

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	51	14
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	4	4
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	366	208
F3: 気分（感情）障害	147	32
F4: 神経性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害	74	9
F5: 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群	2	0
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	5	4
F7: 精神遅滞（知的障害）	9	1
F8: 心理的発達障害	4	1
F9: 小児期および青年期に通常発症する行動および情緒の障害	1	1

施設としての特徴(扱う疾患の特徴など)

当院は210 床を有する単科精神科病院であり、精神科デイケア、精神科訪問看護を併設している。地域の内科、外科等の病院、診療所や福祉保健センターなどの公的機関とも連携し、診察にあたっている。また、神奈川県精神科救急医療体制の輪番病院、準基幹病院として精神科救急患者の受け入れにも対応している。一般臨床に加え、依存症、てんかんについても専門施設、専門外来で研鑽を積んだ医師が在籍しており、その医師の指導のもとで診断治療を経験することができる。

⑩ 施設名: 東京都立松沢病院

- ・施設形態: 公的病院
- ・院長名: 齋藤 正彦
- ・指導責任者氏名: 三角 純子
- ・指導医人数: 21人
- ・精神科病床数(800)床
- ・疾患別入院数・外来数(年間: 案分前)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	420	387
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	1220	455
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	3250	1759
F3: 気分(感情)障害	910	394
F4・F50	650	221
F4 F7 F8 F9 F50	980	147
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	210	129
その他	320	73

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は東京都世田谷区に位置し、東京都の行政精神科医療等で中核的な役割を担っている精神科病院である。800 症の精神科病床を有し、精神科医が約40名在籍している。

内科、神経内科、外科、整形外科、脳神経外科の身体合併症入院病床も有し、身体科の医師は約 25 名在籍する。精神科救急医療、急性期医療、身体合併症医療、社会復帰・リハビリテーション医療、青年期医療、認知症医療、アルコール・薬物医療、医療観察法病棟の他、デイケア、精神科作業療法等を行っている。精神科領域のほとんどの疾患を経験することができ、措置入院や医療観察法入院を含め、すべての入院形態の症例を扱っている。

①施設名:神奈川県立こども医療センター

- ・施設形態 : 公的病院
- ・院長名: 町田 治郎
- ・指導責任者氏名: 新井 卓
- ・指導医人数: 5 人
- ・精神科病床数: 40 床
- ・疾患別入院数・外来数(平成28年度)

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	5	0
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	0	0
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	50	0
F3: 気分(感情)障害	200	2
F4 F50	750	9
F4 F7 F8 F9 F50	1150	46
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	30	0
その他	0	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当施設全体が小児総合医療機関(419床)である。児童思春期精神科において、初診時中学生年齢以下を対象とし、通院患者は9割以上が18歳以下である。児童思春期精神科病棟(40床開放病棟)では、中学生年齢以下を入院対象としている。身体科からの併診依頼や入院患者に関するリエゾン・コンサルテーション業務もある。外来患者・入院患者とも精神病性障害の比率は低く、神経症性障害、摂食障害、多動性障害あるいは自閉スペクトラム障害を中心とする発達障害と診断される患者が多い。虐待あるいは不適切な養育に対し児童相談所が介入している患者も例年3割前後いる。また、家族の精神疾患、人格的問題あるいは発達障害にも配慮した家族支援も行っている。さらに、地域の福祉機関だけでなく地域の学校を中心とする教育機関とも連携した退院支援を行っている。

注1) 当施設には、1年目の基幹施設での研修中に週に1回1年間もしくは1ヶ月間の
出向による研修を予定している。

注2) 希望者は、3年目のローテート先として当施設を選択できる。ただし、当施設
に2年以上研修し、入職試験を受験する必要がある。

⑫施設名：大泉病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：半田貴士
- ・指導責任者氏名：半田貴士
- ・指導医人数：11人
- ・精神科病床数：240床
- ・疾患別入院数・外来数（年間）

疾患別入院数

疾患	外来患者数 （年間）	入院患者数 （年間）
F0: 症状性を含む器質性精神障害	30	38
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	26	23
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	106	599
F3: 気分（感情）障害	207	367
F4 F50	67	30
F4 F7 F8 F9 F50	22	11
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	16	21
その他	22	0

施設としての特徴（扱う疾患の特徴等）

東京都区西北部にある精神科病院であり、240床の病床のうち96床が精神科救急病床である。年間900名以上の新入院があり、措置入院も年間80名を越える。救急病棟の平均在院日数は50日前後であり、入退院が多く、急性期の症例を豊富に経験することができる。また、デイケア、作業療法、心理教育プログラム、訪問看護にも力を入れており、多職種によるチーム医療に参加できる。グループホーム、宿泊型生活訓練施設も併設しており、地域医療、社会復帰活動にも積極的に取り組んでいる。

⑬施設名：慈雲堂病院

- ・施設形態：私立単科精神科病院
- ・院長名：田邊 英一
- ・指導責任者氏名：田邊 英一
- ・指導医人数：3人
- ・精神科病床数：490床

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	89	304
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	12	16
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	544	597
F3: 気分（感情）障害	160	144
F4 F50	45	29
F4 F7 F8 F9 F50	2	2
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	5	4
その他	13	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

23 区内で 80 年以上の歴史を持つ、543床の精神科病院である。近年は精神科急性期医療と認知症医療を 2 本柱として診療を行っている。精神科急性期医療は指定病院であり、措置入院の受入も行っている。また近隣の精神科クリニックのみならず一般科病院とも連携をとり、入院・外来患者の受入を積極的に行っている。認知症医療は東京都老人性認知症専門病棟 50 床を平成 6 年より稼働させ、平成 27 年9月からは認知症疾患医療センターの指定も受け、行政や医師会とも連携をとりながら主に重度の認知症の入院医療を受けている。訪問看護ステーション、グループホームがあり、長期入院患者の地域移行にも積極的に取り組んでいる。

⑭ 施設名: 神奈川県立精神医療センター

- ・施設形態: 公的病院
- ・センター長名: 田口 寿子(所長)
- ・プログラム統括責任者氏名: 田口 寿子(所長)
- ・指導責任者氏名: 小林 桜児(副院長兼医療局長)
- ・指導医人数: 10人
- ・精神科病床数: 323床

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	43	20
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	1357	266
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	1721	371
F3: 気分(感情)障害	937	229
F4 F50	667	80
F4 F7 F8 F9 F50	253	43
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	141	36
その他	74	1

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

神奈川県内の公的単科精神科病院であり、合わせて70床の精神科救急病棟を有する精神科救急の中核的病院である。神奈川県精神科救急医療体制の基幹病院7病院の中で唯一の精神科単科病院で、基幹ベッドのほぼ半数 16床を担当している。一般精神科医療から専門医療まで、幅広く豊富な症例がある。具体的には、一般精神科医療の流れでは、難治性精神疾患に対して m-ECT やクロザピンユニットを用意して、地域と連携してクロザピン治療を積極的に行っている。専門医療としては、依存症、ストレスケア(難治性気分障害)、思春期のそれぞれに対し、専用の病棟や専門外来を持っている。特に、依存症では、SMARRP(MATRIX モデルに基づいたワークブック日本語版を開発後、国内に普及した薬物再使用防止プログラム)や SCOP(感情に焦点を当てた多職種協働包括的治療戦略)という治療技法の開発と実践も行い、思春期症例のゲーム依存の入院治療への取組みを始めている。また、ストレスケアでは、反復性経頭蓋磁気刺激法(rTMS)や鍼灸を臨床研究として取り入れ、NIRS(光トポグラフィ)も先進医療として実施し、令和元年度からは全国の施設に先駆けて rTMS の保険診療体制を整えた。さらに、指定入院医療医療機関として 33床の医療観察法病棟があり、心神喪失等の状態で重大な他害行為を行った法の対象者に対し、十分に配置された多職種チームによるガイドラインに基づいた治療を実施している。当院では、医療観察法鑑定入院および指定通院医療を含め、一貫した医療観察法医療の流れを習得できる。県内の広域に及ぶ指定通院対象者を含め、年間 3000 件の訪問看護も行い、地域医療を実践している。平成 30 年 4 月から 3T-MRI を導入し、「もの忘れ外来」における認知症の鑑別診断など、自施設内で実施でき

る検査体制の増強を行った。加えて、都道府県及び政令指定都市によって組織される、専門的な研修・訓練を受けた災害派遣精神医療チームである DPAT (Disaster Psychiatric Assistance Team)を構成している。なかでも発災から概ね 48 時間以内に、被災した都道府県等において活動できるという定義の先遣隊を派遣する施設で、県の災害拠点精神科病院の指定も受けており、災害精神医学に触れる機会も確保されている。

⑮ 施設名:医療法人社団 ハートフル川崎病院

- ・施設形態:単科精神科病院
- ・開設者:理事長 横川 秀男
- ・院長名:河村 代志也
- ・指導責任者氏名:河村 代志也
- ・指導医人数: 7 人
- ・精神科病床数: 320 床

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	外入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	25	2
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	8	14
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	128	135
F3: 気分（感情）障害	263	275
F4 F50	107	43
F4 F7 F8 F9 F50	0	2
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	8	6
その他	22	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

都市型の単科精神科病院であり、急性期を含めた外来、入院精神科医療全般を学ぶことができる。主な入院症例は精神病圏、気分障害圏、不安障害、認知症などで、精神科医として経験しておかなければいけない症例をカバーしている。入院形態も多彩で、医療保護入院、措置入院といった非自発入院症例も豊富である。また、一般的な精神科治療、急性期治療、認知症治療のほか、都市型の病院という特色を活かしたストレスケアなど、患者の状態やニーズに合わせた多彩な治療を経験することができる。

リハビリ部門では精神科の大規模デイケアのほかに、うつ病患者の復職支援であるリワークプログラムを擁している。入院患者の地域移行支援、外来患者の生活支援として訪問看護を行っている。

- ⑯ 施設名:東邦大学医療センター佐倉病院
- ・施設形態:大学病院
 - ・院長名:長尾 建樹
 - ・指導責任者氏名:桂川修一
 - ・指導医人数: 4人
 - ・精神科病床数: 0床

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	外入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	105	0
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	14	0
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	264	0
F3: 気分（感情）障害	656	0
F4 F50	30	0
F4 F7 F8 F9 F50	500	0
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	3	0
その他	0	0

施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

当院は 541 床を有する地域基幹病院である。ICU など 21 の科を有し、3テスラの MRI をはじめ先端医療機器を備え、二次救命救急医療機関として地域の救急医療を担っている。この中で精神神経科は、様々な先駆的医療を提供している。具体的には、連携施設病院ならびに関連病院や診療所と連携して急性期治療に対応している。また、総合病院に入院する精神科患者の身体合併症対応や身体疾患に伴う精神症状や心理的社会的問題に対するリエゾンサービスを行い、緩和医療にも加わっている。産業メンタルヘルスにも注力しており、うつ病等で休職を繰り返す勤労者の職場復帰支援に特化したデイケアを開設している。さらに、もの忘れ相談や在日外国人の精神科診断・治療など近年増加するニーズにも積極的に応じている。臨床研究にも取り組んでおり、学会発表、論文発表を行うとともに、当地域での症例検討会や県内の研究会の主管を行っている。専攻医は外来患者および身体科から依頼された入院患者の主治医となり、指導医からのマンツーマンでの指導を受けながら的確な診断と治療の過程を学習習得するとともに、精神疾患をもつ人の苦悩に真摯に向き合う精神科の基本を体得できる。各精神疾患に対して、画像診断をはじめとする医療機器による検査や心理検査を行い、薬物療法、個人精神療法、集団精神療法などの治療を柔軟に組み合わせ最善の治療を行っていく。看護師、心理士、作業療法士、精神保健福祉士などとチーム医療を行う。研修の過程で、小児精神科を除き全ての領域の精神疾患、治療技法を身につけることが可能である。また当院ではリエゾンサービスや肥満外科治療に関する定期的カンファレンスへの出席などから初期研修で習得した医学的知識・医療技術を一層向上させることができる。

⑰施設名:根岸病院

- ・施設形態:単科精神科病院
- ・院長名:松村 英幸
- ・指導責任者氏名: 松村 英幸
- ・指導医人数: 3人
- ・精神科病床数: 426 床

疾患別入院数

疾患	外来患者数 (年間)	外入院患者数 (年間)
F0: 症状性を含む器質性精神障害	255	174
F1: 精神作用物質使用による精神および行動の障害	14	14
F2: 統合失調症、統合失調型障害および妄想性障害	310	480
F3: 気分（感情）障害	174	113
F4 F50	116	28
F4 F7 F8 F9 F50	146	50
F6: 成人のパーソナリティおよび行動の障害	10	9
その他	13	4

・施設としての特徴(扱う疾患の特徴等)

- 1) 統合失調症
- 2) 気分障害(躁鬱病、うつ病)
- 3) 不安障害・パニック障害・ストレス関連障害・身体表現性障害
- 4) 認知症
- 5) 薬物中毒・依存症(アルコール他)
- 6) 器質性・症状性精神病
- 7) その他(人格障害、発達障害、てんかん等)

3. 研修プログラム

1) 年次到達目標

専攻医は精神科領域専門医制度の研修手帳にしたがって専門知識を習得する。研修期間中に以下の領域の知識を広く学ぶ必要がある。1.患者及び家族との面接、2.疾患概念の病態の理解、3.診断と治療計画、4.補助検査法、5.薬物・身体療法、6.精神療法、7.心理社会的療法など、8.精神科救急、9.リエゾン・コンサルテーション精神医学、10.法と精神医学、11.災害精神医学、12.医の倫理、13.安全管理。各年次の到達目標は以下の通りである。

到達目標

1年目:主に基幹施設で指導医とともに統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し認知行動療法、森田療法などのセミナーに参加する。国内の学会で発表する。

2年目:主に連携病院で指導医の指導を受けつつ、自立して面接し診断や治療計画を作成する能力を充実させる。精神科救急や、地域における精神医療および保健福祉に従事する。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。国内外の学会で発表する。

3年目:基幹施設もしくは連携施設において、指導医から自立して診療できるようにする。基幹施設においては、ユース・デイケア「イルボスコ」でのサービスに携わり、早期介入や統合型地域精神科治療プログラム(OTP)、精神科リハビリテーションについて学ぶ。また、児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。様々な学会・研究会などで積極的に発表を行い、症例報告の論文執筆を行う。

2) 研修カリキュラムについて

研修カリキュラムは、「専攻医研修マニュアル」(別紙)、「研修記録簿」(別紙)を参照。

3) 個別項目について

① 倫理性・社会性

基幹施設において、他科の専攻医とともに研修会が実施される。また、精神科医療倫理に関するクルズスも実施される。精神科において多職種チームの一員として診療に携わる中で、そしてコンサルテーション・リエゾンなどを通して身体科との連携を持つことによって、医師としての責任や社会性、倫理観などについても学ぶ機会を得ることができる。

② 学問的姿勢

すべての研修期間を通じて、与えられた症例をケースカンファレンスで発表することを基本とし、その過程で文献的に調査するなどの姿勢を心がける。特に興味深い症例については、積極的に国内外での学会発表や論文投稿を行う。

③ コアコンピテンシーの習得

研修期間を通じて、1)患者関係の構築、2)チーム医療の実践、3)安全管理、4)症例発表技術、5)医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾン・コンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。

④ 学術活動(学会発表、論文の執筆等)

基幹施設において臨床研究、基礎研究に従事し、その成果を学会や論文として発表する。

⑤ 自己学習

大学メディアセンター(図書館)の蔵書および電子書籍や電子ジャーナルを閲覧できる自己学習に最適な環境が整っている。また本学は羽田空港に近く、交通至便の地にあり、国内外の学会・研究会に出席する機会にも恵まれている。

4) ローテーションモデル

1年目に基幹病院である大森病院を中心にローテートし、精神科医としての基本的な知識を身につける。2年目には連携施設をローテートし(常勤)、身体合併症治療、急性期症例、認知症症例、依存症症例を幅広く経験し、精神療法、薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法、精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深めていく。3年目には半年間を精神科病院で、残る半年間を大学病院で研修を行い、各自の技能と知識をより洗練させていく。これらローテーションにおける具体的内容については、本人の希望に応じて柔軟な対応が可能である。

また、研修期間を通じて週に1.5日、連携施設における外勤(非常勤)を行い、常時幅広い臨床経験が行えるようにする。

専攻医は研修プログラム履修中に、基幹施設あるいは連携施設で精神科医としての勤務を続けながら大学院生となる選択肢がある。

ローテーションパターン

当プログラムの連携施設の特徴は、先進的な医療を実践する病院が揃っていることである。ほとんどの連携施設は基幹病院から通勤圏内のアクセスも良い都市圏にある。

大森病院は東京都と神奈川県の間を流れる多摩川の近くに立地する。京浜地区の中央に当たる位置でもあり、ほとんどの関連病院は東京都と神奈川県の都市圏にある。あさかホスピタルは福島県郡山市にあるが、全国にその名が知られた「統合型地域精神科治療プログラム (Optimal Treatment Project, OTP)」や「ささがわプロジェクト(本邦初の包括的な脱施設化)」についても学ぶことができる。「地域研修プログラム」の選択も可能であり、下図 No.9, No.10 などのように東京都以外の県にある研修施設を選択し1年半以上の研修を行うことができる。

東京都内の連携施設

- | | |
|--------------------------|-----|
| ○ 医療法人財団厚生協会 東京足立病院 | 東京都 |
| ○ 公益財団法人 井之頭病院 | 東京都 |
| ○ 一般財団法人精神医学研究所 東京武蔵野病院 | 東京都 |
| ○ 公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院 | 東京都 |
| ○ 東京都立松沢病院 | 東京都 |
| ○ 大泉病院 | 東京都 |
| ○ 慈雲堂病院 | 東京都 |
| ○ 根岸病院 | 東京都 |

東京都以外の県にある連携施設

- | | |
|----------------------|------|
| ○ 済生会横浜市東部病院 | 神奈川県 |
| ○ 医療法人社団慶神会 武田病院 | 神奈川県 |
| ○ 医療法人社団養心会 鶴見西井病院 | 神奈川県 |
| ○ 医療法人正永会 港北病院 | 神奈川県 |
| ○ 神奈川県立こども医療センター | 神奈川県 |
| ○ 医療法人安積保養園 あさかホスピタル | 福島県 |
| ○ 神奈川県立精神医療センター | 神奈川県 |
| ○ ハートフル川崎病院 | 神奈川県 |
| ○ 東邦大学医療センター佐倉病院 | 千葉県 |

以下にローテーション例を図に示すが、下記以外にも多彩なニーズに柔軟に応じた多様な組み合わせのローテーションパターンの編成が可能である。

年 月	1年目		2年目		3年目	
	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月	4-9月	10-3月
No.1	東邦大学		東邦大学	済生会横浜市東部病院	武田病院	井之頭病院
No.2	東邦大学		済生会横浜市東部病院	武田病院	井之頭病院	東邦大学
No.3	東邦大学		武田病院	井之頭病院	東邦大学	済生会横浜市東部病院
No.4	東邦大学		井之頭病院	東邦大学	済生会横浜市東部病院	武田病院
No.5	東邦大学		東邦大学	東京足立病院	済生会横浜市東部病院	済生会横浜市東部病院
No.6	東邦大学		東京足立病院	済生会横浜市東部病院	済生会横浜市東部病院	東邦大学
No.7	東邦大学		神奈川県立こども医療センター	済生会横浜市東部病院	東邦大学	東京足立病院
No.8	東邦大学		済生会横浜市東部病院	東邦大学	東京足立病院	神奈川県立こども医療センター
No.9	東邦大学		東邦大学	済生会横浜市東部病院	神奈川県立こども医療センター	あさかホスピタル
No.10	東邦大学		神奈川県立こども医療センター	済生会横浜市東部病院	済生会横浜市東部病院	東邦大学

5) 研修の週間・年間計画の例
 東邦大学医療センター大森病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
08:30-09:00	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス		モーニングカンファレンス	モーニングカンファレンス
09:00-12:00	病棟業務	初診陪審	外来予診	連携施設外勤	病棟業務	病棟業務
13:00-17:00	ケースプレゼンテーション・回診	病棟業務	病棟業務	連携施設外勤	病棟業務	病棟業務 (14時まで)
18:00-20:00	医局会 ケースカンファレンス ジャーナルクラブ		リサーチミーティング 英会話レッスン	森田療法セミナー	クルズス (不定期)	

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加、東邦医学会参加
7月	東京精神医学会参加
8月	
9月	OTP講習会
10月	日本森田療法学会参加 (任意)、専攻医研修中間報告書提出
11月	東京精神医学会参加、東邦医学会参加
12月	日本精神保健・予防学会参加 (任意)
1月	日本社会精神医学会参加 (任意)
2月	
3月	東京精神医学会参加、東邦医学会参加、専攻医研修報告書作成

① 済生会横浜市東部病院

週間計画

	月	火	水	木	金
08:30-09:00	モーニングカンファレンス・回診	モーニングカンファレンス・回診	モーニングカンファレンス・回診	モーニングカンファレンス・回診	モーニングカンファレンス・回診
09:00-12:00	病棟業務	病棟業務	他科病棟 リエゾン業務	外来業務	病棟業務
13:00-17:00	カンファレンス・回診・症例検討会・強会	病棟業務	他科病棟 リエゾン業務	外来業務	病棟業務
夜間救急					

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加
7月	東京精神医学会参加
8月	
9月	OTP講習会
10月	日本森田療法学会参加（任意）、専攻医研修中間報告書提出
11月	東京精神医学学会参加
12月	日本精神保健・予防学会参加（任意）
1月	日本社会精神医学会参加（任意）
2月	
3月	東京精神医学会参加、東邦医学学会参加、専攻医研修報告書作成

② 医療法人安積保養園 あさかホスピタル

週間計画

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟業務	9:00-10:00 救急病棟 10:00-12:00 病棟業務	外来業務		病棟業務	外来業務
13:00-18:00	救急外来担当 病棟業務	13:00-17:30 病棟業務 17:30-19:30 医局会（症例検討 会・医局研修会）	病棟業務		救急外来担当 病棟業務	病棟業務

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション（院内）/院長基本方針（院内）/総合診療検討会（院内）
5月	感染対策研修会（院内）/総合診療検討会（院内）
6月	医療安全研修会（院内）/日本精神神経学会学術総会参加（院外）/総合診療検討会（院内）
7月	診療記録管理研修会（院内）/精神保健福祉法研修会（院内）/総合診療検討会（院内）/東京精神医学会（院外）
8月	安全衛生研修会（院内）/総合診療検討会（院内）
9月	あさかフェスティバル（院内）/総合診療検討会（院内）
10月	総合診療検討会（院内）
11月	感染対策研修会（院内）/医療安全・人権擁護研修会（院内）/医薬品安全管理研修会（院内）/褥瘡対策研修会（院内）/総合診療検討会（院内）/東京精神医学会（院外）
12月	医療ガス保安研修会（院内）/総合診療検討会（院内）
1月	医療サービス向上研修会（院内）/総合診療検討会（院内）
2月	医療安全研修会（院内）/NST研修会（院内）/総合診療検討会（院内）/福島精神医学会（院外、発表）
3月	研修プログラム評価報告書の作成/総合診療検討会（院内）/東京精神医学会（院外）

③ 公益財団法人 井之頭病院

週間計画

	月	火	水	木	金
09:00-09:10	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング	医局ミーティング
9:10-12:30	外来（再診）陪席	病棟業務	外来（初診・入院）陪席	病棟業務	院長回診
13:30-18:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
				医局会議・症例検討会等	

年間計画

月	内容
4月	新入職者オリエンテーション/指導医指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加/日本老年精神医学会大会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	研修プログラム管理委員会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

④ 医療法人社団慶神会 武田病院

週間計画

	月	火	水	木	金
08:45-9:30	連絡調整会議	連絡調整会議	連絡調整会議	連絡調整会議	連絡調整会議
	入院患者申し送り	入院患者申し送り	入院患者申し送り	入院患者申し送り	入院患者申し送り
09:30-11:00	外来診察	入院診察	外来診察	入院診察	外来診察
11:00-12:00	入院診察	退院支援委員会	入院診察	退院支援委員会	入院診察
		調整会議		調整会議	
12:15-13:00	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み	昼休み
13:00-14:00	入院診察	入院診察	診療部合同ミーティング	入院診察	入院診察
14:00-15:00	病棟スタッフミーティング	病棟スタッフミーティング	入院集団精神療法	病棟スタッフミーティング	病棟スタッフミーティング
15:00-17:30	入院統合失調症心理教育	リワークデイケア心理教育	入院診察	病棟診察	入院気分障害心理教育
17:30-18:30	医局会		事例検討会		
			症例指導		

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーションおよび入院治療の実際/精神保健福祉法の運用についてのクルズ
5月	入院治療の実際/精神保健福祉法の運用についてのクルズ
6月	入院集団精神療法/集団心理教育プログラムへの参加
7月	川崎市QOL研究会（地域周辺医療機関合同研究会）への参加/発表
8月	入職後の振り返り面談・院内合同研究発表会に向けての検討
9月	院内事例検討会における症例発表/集団家族心理教育プログラムへの参加
10月	リワークデイケアプログラムにおける集団認知行動療法への参加
11月	院内合同研究会発表
12月	訪問看護への同行
1月	
2月	これまでの振り返りと残る課題の抽出
3月	研修内容のチェック

⑤ 医療法人財団厚生協会 東京足立病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
08:30-09:00	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング	朝ミーティング
09:00-12:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	外来業務 デイケア	外来業務 m-ETC	外来業務 デイケア	外来業務 訪問診療	外来業務 m-ETC	外来業務 デイケア
12:30-13:30		症例カンファ勉強会				
13:30-17:15	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	外来業務 デイケア	外来業務 脳波クルズス	外来業務 デイケア	外来業務 訪問診療	外来業務 院長回診	外来業務 デイケア
	保健所・保健総合センター相談業務（月10回）/総合病院リエゾン（月1回）/福祉施設相談業務（月3回）/ 講演会（不定期）					

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション/1年目専攻医研修開始/2・3年目専攻医前年研修報告書提出/指導医の指導実績報告書提出
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加/教室同窓会参加/日本老年精神医学会（任意）
7月	東京精神医学会学術集会参加（任意）
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会（任意）/院内学会
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出/日本臨床精神神経薬理学会年会（任意）/日本精神科救急学会学術総会（任意）/ 日本デイケア学会（任意）
11月	日本総合病院精神医学学会総会参加（任意）/日本精神科医学会（任意）/東京精神医学会学術集会参加（任意）
12月	
1月	
2月	
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成/東京精神医学会学術集会参加（任意）

⑥ 一般財団法人精神医学研究所 東京武蔵野病院

週間計画

	月	火	水	木	金
08:00-9:00	クルズス				クルズス
08:30-9:00	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り	病棟申し送り
09:00-12:00	外来予診陪席	病棟業務	外来予診陪席	病棟業務	外来予診陪席
13:00-16:00	入退院	病棟業務	病棟業務	行動制限	訪問同行
	カンファレンス			カンファレンス	
16:00-17:00	診療部会	病棟業務	病棟業務	病棟業務	訪問同行
17:00-18:00	症例検討会			抄読会	

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	
10月	地方精神神経学会参加・演題発表
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	地方精神神経学会参加・演題発表

⑦ 医療法人社団養心会 鶴見西井病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
08:30-9:00	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	カンファレンス	
9:00-12:00	初診陪席	病棟業務	初診陪席	病棟業務	初診陪席	病棟業務
13:00-17:00	病棟業務	往診同行	病棟業務	往診同行	病棟業務	病棟業務

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加
7月	
8月	鶴見区精神科談話会
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	日本社会精神医学学会参加（任意）
2月	
3月	

⑧ 公益社団法人地域医療振興協会 練馬光が丘病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
08:30-9:00			カンファレンス			
09:00-12:00			予診 初診陪席			
13:00-17:00			リエゾン 病棟業務			

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加
7月	
8月	
9月	
10月	日本森田療法学会参加（任意）
11月	
12月	日本精神保健・予防学会参加（任意）
1月	日本社会精神医学会参加（任意）
2月	
3月	

⑨ 医療法人正永会 港北病院

週間計画

	月	火	水	木	金	土
808:45-09:30	入院 カンファレンス	入院 カンファレンス	入院 カンファレンス		抄読会 (09:00-09:30)	
09:30-12:00	外来予診	外来予診 病棟業務	外来予診 病棟業務		外来予診 病棟業務	院長回診 病棟業務
12:00-12:30	医局会 ケースカンファ		抄読会		院内研究会	
13:00-17:00	病棟業務 レントゲンカンファレンス	病棟業務	病棟業務		病棟業務	病棟業務
17:00-19:30	心理療法 研究会(月1回)					

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加 日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	
9月	横浜市精神科医会講演会参加
10月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加 横浜市精神科医会講演会参加
11月	横浜市精神科医会講演会参加
12月	
1月	横浜市精神科医会講演会参加
2月	横浜市保土ヶ谷区医師会地域連携講演会参加
3月	横浜市精神科医会講演会参加

⑩ 東京都立松沢病院

週間計画

	月	火	水	木	金
08:30-09:00	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング	病棟ミーティング
09:00-12:00	病棟業務	病棟業務 新患予診	病棟業務	病棟 カンファレンス	病棟教務
12:15-13:15	クルズス			クルズス	
13:30-17:00	病棟業務 入退院カンファレンス	院長回診 病棟業務 新患予 診	病棟業務	病棟業務	病棟業務
	16:30-18:00 ケースカンファレンス	17:15-18:00 医局会			
18:15-20:45		集談会・講演会 (月1回)			

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション/1年目専攻医研修開始/2・3年目専攻医前年研修報告書提出/ 指導医の指導実績報告書提出
5月	日本精神神経学会学術総会参加
6月	東京精神医学会学術集会参加 (任意)
7月	
8月	
9月	日本生物学的精神医学会年会 (任意)
10月	1・2・3年目専攻医研修中間報告書提出/日本臨床精神神経薬理学会年会 (任意)
11月	日本総合病院精神医学会総会参加 (任意) /東京精神医学会学術集会参加 (任意)
12月	
1月	
2月	2年目専攻生東京医師アカデミー研究発表
3月	1・2・3年目専攻医研修報告書作成/東京精神医学会学術集会参加 (任意) <input checked="" type="checkbox"/> 東京精神医学会学術集会参加 (任意)

⑪ 神奈川県立こども医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	m-ECT 病棟業務	外来予診/初診	r-TMS補助業務 病棟業務	管理者回診	m-ECT 病棟業務	
午後	病棟業務 医局会 抄読会 行動制限評価 評価検討会議 (月1回)	病棟業務 医療観察法病棟 治療評価会議	病棟業務 急患対応 救急病棟カンファ	病棟業務 思春期病棟カン ファ	病棟業務 専攻医クルーズ	

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション/新採用・転入職員研修 研修開始/前年度研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	CVPPP (包括的暴力防止プログラム) 研修
6月	日本精神神経学会学術総会参加 感染防止研修 日本司法精神医学会参加 (任意)
7月	医療事故防止研修
8月	
9月	
10月	専攻医中間研修報告書提出 院内研究発表会 1回目 日本児童青年医学会参加 (任意)
11月	
12月	研修プログラム管理委員会参加 院内研究発表会 2回目 日本精神科救急学会参加 (任意)
1月	医療安全フォーラム参加
2月	神奈川県精神医学会例会参加・演題発表 情報セキュリティー研修 衛生委員会研修
3月	専攻医研修報告書作成 研修プログラム評価報告書作成

⑫ 大泉病院

週間計画

	月	火	水	木	金
09:00-11:00	修正通電療法	外来業務	修正通電療法	外来初診・新入院 登番	修正通電療法
11:00-12:00	病棟業務		病棟業務		病棟業務
13:00-14:00	病棟業務	病棟業務	院長回診・入院カ ンファレンス	外来初診・新入院 当番	病棟業務
14:00-15:00			病棟業務		
15:00-16:00			病棟業務		
16:00-17:00			病棟業務		

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション/指導医の指導実績報告書提出
5月	教室研究会参加
6月	日本精神神経学会学術総会参加
7月	
8月	教室研究会参加
9月	デイケア家族会
10月	
11月	東京精神医学会参加・演題発表
12月	研修プログラム管理委員会参加/教育研究会参加
1月	
2月	
3月	研修プログラム評価報告書の作成

㊦ 慈雲堂病院

週間計画

	月	火	水	木	金
09:00-12:00	病棟業務	病棟業務	外来診察	院長回診	病棟業務
13:00-16:00	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務	病棟業務
16:00-17:00	新入院 カンファレンス	病棟業務	病棟業務	医局会・症例検討 会	病棟業務

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション・クルズス/指導医の指導実績報告提出
5月	クルズス
6月	精神神経学会参加
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	東京精神医学会参加
12月	
1月	
2月	
3月	東京精神医学会参加・演題発表/研修プログラム評価報告書の作成

④ 神奈川県立精神医療センター

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
午前	m-ECT 病棟業務	外来予診/初診	m-ECT 病棟業務	管理者回診	m-ECT 病棟業務	
午後	医局会 抄読会 行動制限 評価検討会議 (月1回)	医療観察法病棟 治療評価会議	病棟業務 急患対応	思春期病棟カン ファ 救急病棟カンファ	病棟業務	

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション/新採用・転入職員研修 研修開始/前年度研修報告書提出 指導医の指導実績報告提出
5月	CVPPP (包括的暴力防止プログラム) 研修
6月	日本精神神経学会学術総会参加 感染防止研修 日本司法精神医学会参加 (任意)
7月	
8月	
9月	
10月	専攻医中間研修報告書提出 院内研究発表会 1回目 日本児童青年医学会参加 (任意)
11月	
12月	研修プログラム管理委員会参加 院内研究発表会 2回目 日本精神科救急学会参加 (任意)
1月	医療安全フォーラム参加
2月	神奈川県精神医学会例会参加・演題発表 情報セキュリティー研修 衛生委員会研修
3月	専攻医研修報告書作成 研修プログラム評価報告書作成

㊦ 医療法人社団 ハートフル川崎病院

週間スケジュール

	月	火	水	木	金	土
9:00-12:00	病棟診療または	病棟診察	病棟診察	病棟診察	病棟診察	
12:00-13:00					医局会	
13:00-16:00	病棟診療または					
16:00-17:00	症例					
13:00-18:00		外来診察（再診）	病棟診察	病棟診察	病棟診察	

年間計画

	内容
4月	オリエンテーション 指導医とともに外来診察、病棟診察、当直業務。中旬から入院患者担当開始
5月	当直業務開始
6月	外来業務開始 専門医研修プログラム進行状況確認
7月	症例カンファレンス 症例提示開始
8月	
9月	専門医研修プログラム進行状況確認 指定医症例の進行状況の確認
10月	10月以降に、学会発表を行うために準備開始
11月	
12月	専門医研修プログラム進行状況確認
1月	
2月	
3月	専門医研修目標達成度評価

⑩ 施設名:東邦大学医療センター佐倉病院

週間スケジュール(情報なし)

	月	火	水	木	金	土
9:00~12:00	外来(初診)	外来	外来(初診)	外来(初診)	外来	外来
13:00~17:00	リエゾン回診	外来(初診)	外来(初診)	リエゾン回診	デイケア	
	17:00~18:00 デイケアカンファレンス		17:45~19:30 オベシティーカンファレンス (第3週)	17:45~19:00 周産期メンタルヘルス勉強会 (第4週)		
	18:00~18:30 リエゾンカンファレンス					
	18:30~19:30 症例検討会・抄読会					

年間計画

月	内容
4月	千葉総合病院精神科研究会
5月	
6月	日本精神神経学会、日本産業精神保健学会 北総精神科医会(症例検討会)
7月	北総精神科医会(総会)、神経精神セミナー
8月	
9月	
10月	
11月	日本総合病院精神医学会、北総精神科医会(症例検討会)
12月	
1月	神経精神セミナー
2月	北総精神科医会(症例検討会)
3月	

⑰施設名:根岸病院

週間スケジュール(情報なし)

	月	火	水	木	金	土
AM	病棟	病棟	外来	病棟	病棟	
PM	病棟 (医局会)	病棟	病棟	病棟	病棟 (症例検討会)	

年間計画

月	内容
4月	オリエンテーション
5月	
6月	日本精神神経学会参加学術集会参加 (任意)
7月	
8月	
9月	
10月	
11月	
12月	
1月	
2月	
3月	

4. プログラム管理体制について・プログラム管理委員会

委員長 医師:根本 隆洋

委員 医師:辻野 尚久

医師:武士 清昭

医師:木下 文彦

医師:武田 龍太郎

医師:白上 正尚

医師:藤田 基

医師:西井 ヘルベルト

医師:當間 実名雄

医師:山口 哲頭

医師:梅津 寛

医師:新井 卓

医師:半田 貴士

医師:田邊 英一

医師:小澤 篤嗣

医師:河村 代志也

医師:桂川 修一

医師:松村 英幸

医師:片桐 直之

医師:山口 大樹

看護師:大森 郁子

精神保健福祉士:高田 みほ

臨床心理士:鈴木 綾香

・プログラム統括責任者

根本 隆洋

・連携施設における委員会組織

各連携施設の指導責任者および実務担当の指導医によって構成される。

5. 評価について

1) 評価体制

東邦大学医療センター大森病院:根本 隆洋

済生会横浜市東部病院:辻野 尚久

あさかホスピタル:武士 清昭

井之頭病院:木下 文彦

武田病院:武田 龍太郎

東京足立病院:白上 正尚

東京武蔵野病院:藤田 基

鶴見西井病院:西井 ヘルベルト

練馬光が丘病院:當間 実名雄

医療法人正永会港北病院:山口 哲頭

東京都立松沢病院:梅津 寛

地方独立行政法人神奈川県立病院機構神奈川県立こども医療センター:新井 卓

医療法人財団厚生協会大泉病院:半田 貴士

医療法人社団じうんどう慈雲堂病院:田邊 英一

神奈川県立医療センター:小澤 篤嗣

医療法人社団 ハートフル川崎病院:河村 代志也

2) 評価時期と評価方法

- ・ 3 か月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。
- ・ 研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。
- ・ 1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。
- ・ その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。

3) 研修時に則るマニュアルについて

「研修記録簿」(別紙)に研修実績を記載し、指導医による形成的評価、フィードバックを受ける。総括的評価は精神科研修カリキュラムに則り、少なくとも年1回行う。

東邦大学医療センター大森病院にて専攻医の研修履歴(研修施設、期間、担当した専門研修指導医)、研修実績、研修評価を保管する。さらに専攻医による専門研修施設および専門研修プログラムに対する評価も保管する。

プログラム運用マニュアルは「専攻医研修マニュアル」(別紙)と「指導医マニュアル」(別紙)を用いる。

・専攻医研修実績記録

「研修記録簿」に研修実績を記録し、一定の経験を積むごとに専攻医自身が形成的評価を行い記録する。少なくとも年に1回は指定された研修項目の年次ごとの達成目標に従って、各分野の形成的自己評価を行うこと。研修を終了しようとする年度末には総括的評価が行われる。

・指導医による指導とフィードバックの記録

専攻医自身が自分の達成度評価を行い、指導医も形成的評価を行い記録する。少なくとも年1回は指定された研修項目を年次ごとの達成目標に従って、各分野の形

成的評価を行い、評価者は「劣る」「やや劣る」の評価をつけた項目については必ず改善のためのフィードバックを行い記録し、翌年度の研修に役立たせる。

6. 全体の管理運営体制

1) 専攻医の就業環境の整備(労務管理)

各施設の労務管理基準に準拠する。

2) 専攻医の心身の健康管理

各施設の健康管理基準に準拠する。

3) プログラムの改善・改良

基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を実施する。

4) FD の計画・実施

年1回、プログラム管理委員会が主導し各施設における研修状況を評価する。